

令和元年度

岐阜県協同農業普及事業外部評価

結果報告書

(HP 公開用)

令和2年3月

岐阜県農政部農業経営課

## はじめに

岐阜県では、農業改良助長法に基づき、農業経営課、各農林事務所並びに農業大学校に普及指導員を置き、農業経営及び農村生活の改善に関する科学的技術及び知識の普及指導を行うこと等により、担い手の育成を図りつつ、農村の振興に取り組んでいます。

本県の普及事業は、国が示す「協同農業普及事業の運営に関する指針」（平成27年5月11日付、農林水産省告示第1090号）および「ぎふ農業・農村基本計画（平成28年度～32年度）」に基づき「協同農業普及事業の実施に関する方針（平成28年度～32年度）」（以下、「実施方針」という。）を基本的な考え方として実施しています。

各農林事務所では、実施方針に沿って、「普及指導基本計画書（平成28年度～32年度）」と「年度別普及指導計画書」を作成し、計画的に普及活動を展開しています。

また、農業大学校においては、岐阜県の新規就農者の育成・確保を目的に「岐阜県農業大学校担い手育成機能強化プラン（令和2年度～6年度）」及び年度ごとの「教育計画」を作成して教育・研修に取り組んでいます。

普及事業は、最近の10年間で、担い手育成や就農支援に注力し、研修から営農定着まで一貫して支援する「岐阜県方式」による地域ぐるみの就農支援体制を構築するなど成果をあげてきました。さらに、国際競争力を強化するGAPの実践、スマート農業など農業革新を実現する技術の導入や農福連携の推進など、新たな分野へと活動の幅が広がっています。

今後も、農業者や地域農業のニーズに対応した普及指導活動を展開し高い成果を創出するために、幅広く外部からの客観的な視点で評価を受け、業務改善に努めるとともに、普及事業への理解の促進を図ることが必要となっています。

そのため、農業者や外部有識者等による外部評価を実施することとし、令和元年度は、農業大学校、農業革新支援センター並びに岐阜農林事務所の取り組みについて外部評価を行いました。

ご協力いただいた外部評価委員の皆様には心よりお礼申し上げますとともに、委員から頂いた貴重なご意見を今後の県協同農業普及事業の改善とさらなる高度化に繋げていくよう努めて参ります。

ここに、本年度実施した外部評価結果を報告いたします。

令和2年3月31日

岐阜県農政部農業経営課  
課長 足立 葉子

## 1 外部評価の目的

「協同農業普及事業の実施に関する方針」に基づき、普及指導活動において高い成果を創出するため、先進的な農業者や学識経験者、農業団体職員、消費者、報道関係者を含む委員による外部評価を実施し、その意見を次年度以降の活動に反映させることを通じて、業務の改善を行うことを目的とします。

## 2 外部評価の対象

- (1) 各農林事務所農業普及課が実施する普及指導計画及び普及指導体制、並びに農業革新支援センターが実施する普及活動に関すること。
- (2) 農業大学校が実施する教育課程並びに募集活動、就農支援活動に関すること。

## 3 外部評価の経過

### (1) 外部評価委員の選定

外部評価委員については、農林水産省生産局長通知の「協同農業普及事業の実施についての考え方(ガイドライン)」に基づき、先進的な農業者、若手・女性農業者、農業団体職員、消費者、学識経験者、報道関係者、民間企業から各1名計7名の方々を表1のとおり選定しました。

<表1> 岐阜県協同農業普及事業外部評価委員一覧(順不同 敬称略)

| 部門          | 氏名     | 所属  | 役職    |
|-------------|--------|---|-------|
| 農業者         | 後藤 昌宏  | 岐阜県農業担い手リーダー<br>(岐阜県指導農業士連絡協議会)                 | 会長    |
| 農業者<br>(女性) | 伊藤 由美子 | 岐阜県農業担い手リーダー<br>(岐阜県女性農業経営アドバイザー<br>いきいきネットワーク) | 会長    |
| 学識経験者       | 秋元 浩一  | 名古屋学院大学商学部                                      | 名誉教授  |
| 農業関係<br>団体  | 野田 英司  | 岐阜県農業協同組合中央会<br>JA 担い手サポートセンター                  | センター長 |
| 消費者         | 林 喜美子  | 生活協同組合コープぎふ                                     | 理事    |
| マスコミ        | 国本 真志登 | 岐阜新聞 編集局  | 副局長   |
| 民間企業        | 岩崎 豪   | イオンリテール株式会社<br>東海カンパニーエリア政策推進チーム                | 岐阜担当  |

## (2) 評価対象普及課題の農林事務所での自己評価実施

評価のバラツキを抑え公平な評価を行うために、外部評価会に先立って各農林事務所が「普及指導計画活動課題別評価票」に従って自己評価を行いました(別紙様式1)。

## (3) 岐阜県協同農業普及事業外部評価会(課題評価)

農業大学校、岐阜農林事務所、農業革新支援センターが自己評価の結果を「普及指導計画活動課題別評価票」をもとに説明し、その後、外部評価委員が課題ごとに評価を行いました。

### (期 日)

令和元年11月11日(木) 13:00~16:30

### (場 所)

岐阜県農業大学校 園芸学教室

### (出席者)

#### ・外部評価委員(順不同)

後藤昌宏氏、秋元浩一氏、野田英司氏、林喜美子氏、国本真志登氏、岩崎 豪氏

#### ・岐阜県農政部職員

足立葉子(農業経営課 課長)、今村拓幸(同 技術指導監)、桂川直人(岐阜県農業大学校 校長)、関尾政典(同 副校長)、酒井貞明(岐阜農林事務所 農業普及課長)、水川誠(同 技術課長補佐兼係長)、市橋秀幸(農業経営課 技術課長補佐兼係長)、魚住雅信(同 技術課長補佐兼係長)、加藤高伸(農業経営課 技術課長補佐) 稲川晴美(農業経営課 普及企画係)、小椋泉美(同 技術主査)

### (内 容)

秋元委員を座長として、選定した評価課題について各農林事務所からの説明の後、質疑応答が行われました。

### (評価対象課題)

#### ・岐阜県農業大学校

青年農業者の育成及び農業技術者の養成

#### ・農業革新支援センター

オリジナル品種(フランネルフラワー)を活かした強みのある産地づくりと生産組織の活動強化

#### ・岐阜農林事務所

にんじん共同選果施設を核にした産地規模拡大

#### (4) 評価結果の取りまとめ

外部評価会での説明並びに質疑応答を元に、各委員が課題ごとの「岐阜県協同農業普及事業の評価及び改善に向けた外部評価整理票（別紙様式2）」へ評価結果を記入し、農業経営課へ提出しました。

各委員から提出された「岐阜県協同農業普及事業の評価及び改善に向けた外部評価整理票」を、農業経営課にて「岐阜県協同農業普及事業外部評価結果報告書」として取りまとめました。

#### 4 外部評価の結果

協同農業普及事業にかかる外部評価委員の評価及び意見と評価対象の所属の対応方針を併せてとりまとめました。

##### (1) 岐阜県農業大学校

普及指導課題名：青年農業者の育成及び農業技術者の養成

##### 1) 総合評価

##### ア 評価結果と意見

| A (良好)  | B (普通～概ね良好) | C (改善必要) |
|---|-------------|----------|
| 5人  | 1人          | 0人       |
| <p><b>【学識経験者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・非農家出身者が6割を超える状況にありながら、農業に関わる卒業生が8割を超える状況であり、高い成果がでている。</li><li>・教育施設の整備にも力を入れており評価できる。</li></ul> <p><b>【農業関係団体】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習カリキュラムや担当する講師陣をみると、学生は充実した2年間を送り、卒業後には農業者として即戦力たる人材になりうるということがうかがえる。</li><li>・若手農業者も含め、農業者全般の傾向として簿記や決算書を読む力が不足している。経営者自らが数字に強く、数字に基づいた経営がより一層求められるため、今後は、事業計画の作成や、さらにはB/S、P/Lなどの経営分析についても力を入れてほしい。</li></ul> <p><b>【消費者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・農業大学校の目的、目標が明確になっており、その達成に向けた取り組みの様子がよくわかった。</li></ul> <p><b>【民間企業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・成果目標として、挙げられている項目は、いずれも重要である。</li><li>・目標の設定の根拠について、例えば全国平均などという形で、できるだけ明示を求める。</li></ul> <p><b>【マスコミ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生が自ら課題を持って意欲的に取り組んでいる姿がみられた。卒業後の就農率50%の目標を達成したが、さらなる向上を望みたい。</li></ul> |             |          |

イ 所属の対応方向

| 項目                                    | 対応方向  |
|---------------------------------------|---|
| ①事業計画の作成や経営分析 (B/S、P/L) に関するカリキュラムの実施 | ①「農業簿記」「農業経営」「経営設計」のカリキュラムの充実をはかります。  |
| ②成果目標の数値の根拠                           | ②国や県の統計数値、過去実績等を考慮し、目標設定の在り方を改善します。<br>なお、東海近畿9府県の就農率は平均49.8%であり、本校の目標50%としました。                 |
| ③卒業後の就農率に関する目標数値の向上                   | ③過去10年間の平均は52.8%ですが、最高は68.2% (平成22年度)、最低は35.7% (平成23年度) となっており、50%を超えた年が7年あることから、目標数値の向上を検討します。 |

(2) 農業革新支援センター

普及指導課題名：オリジナル品種（フランネルフラワー）を活かした強みのある産地づくりと生産組織の活動強化

1) 総合評価

ア 評価結果と意見

| A (良好)  | B (普通～概ね良好) | C (改善必要) |
|---|-------------|----------|
| 4人  | 2人          | 0人       |
| <p><b>【学識経験者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栽培技術の確立と産地ブランドを強化ができており、成果は大きい。今後の生産・販売体制の維持と強化に期待する。</li> </ul> <p><b>【農業関係団体】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>普及指導員数が減少するなか、普及員の資質向上のために農業革新支援センターの役割は欠かすことができない。</li> <li>各地域の普及指導活動に対し、農業革新専門員が指導や助言、現地でともに活動するなど補完機能を果たしていることも大きく評価できる。</li> <li>普及指導員が対象の研修会に、JAの営農指導員等も参加できるような仕組みが構築できれば、日常の連携も深まる。</li> </ul> <p><b>【消費者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナル品種のPRや情報発信にいっそう取り組んでほしい。</li> </ul> <p><b>【民間企業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料の「活動方針」と、「産地ブランド発掘事業」の結びつきが理解できなかった。</li> <li>発表内容は、殆どがファンシーマリエについてで、農業革新支援センターの活動がわからなかったため、評価はB、Cの間とします。</li> </ul> <p><b>【マスコミ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決のヒントは生産者の評価にあるため、指導員の自己評価だけでなく、生産者自身の評価も知りたかった。</li> </ul> |             |          |

イ 所属の対応方向

| 項目                      | 対応方向  |
|-------------------------|---|
| ①今後の生産・販売体制の強化          | ① 関係機関、団体と連携し、販路の確保を図りつつ、生産拡大を進めます。         |
| ②普及指導員対象の研修へのJA営農指導員の参加 | ② 普及指導員対象の研修会に、JAの営農指導員が参加できるよう計画します。       |
| ③オリジナル品種のPRや情報発信        | ③ オリジナル品種のPRについて、今後も県として関係団体と連携して進めます。      |
| ④生産者自身の評価はどうか           | ④ 本課題については、生産量も順調に拡大し、生産者にも評価されていると認識しています。 |

(3) 岐阜農林事務所

普及指導課題名： 「にんじん共同選果施設を核にした産地規模拡大」

1) 総合評価

ア 評価結果と意見

| A (良好)  | B (普通~概ね良好) | C (改善必要) |
|---|-------------|----------|
| 1人  | 5人          | 0人       |
| <p><b>【学識経験者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家の意欲向上がみられ、今後、一層期待ができる。</li> <li>・新選果場の運営主体は、農家の手取り確保に留意した費用の設定をしていると思うが、共選費の割合を確認してほしい。</li> </ul> <p><b>【農業関係団体】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・にんじんの取組だけでは評価が難しく、岐阜県唯一のスマート農業実証プロジェクトやその他の普及課題の結果も概要でよいので紹介があるとよかった。</li> </ul> <p><b>【消費者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収量や品質向上の取り組みに期待している。</li> <li>・学生や企業と連携しての商品化を楽しみにしている。</li> </ul> <p><b>【民間企業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・残された課題や未達成の課題もあることを、よく整理されている。</li> <li>・すべての課題を目標達成されることは困難ですが、PDCAの手法を以って引き続き取り組んでいただきたい。</li> </ul> <p><b>【マスコミ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選果場への投資費用に見合う成果がでているのか、提示をお願いしたい。</li> </ul> |             |          |

## イ 所属の対応方向

| 項目                          | 対応方向  |
|-----------------------------|---|
| ①共選費用が農家の手取り確保に留意して設定されているか | ①にんじん共選場の選果料はJ Aが決めており、消費税が10%になったことで、選果料が値上がりした。農家負担軽減のために、単収・品質の向上を図ることで、販売単価を上げるよう、令和2年度普及指導計画（指導事項の1，2）に反映しました。   |
| ②収量や品質向上の取り組み               | ②品種・肥料等の試験や研修会での収量・品質向上対策の周知徹底を行うよう、令和2年度普及指導計画（指導事項の1，2）に反映しました。   |
| ③学生や企業と連携した商品化              | ③東海学院大学では、これまでに商品開発検討会にて、学生がにんじんを使った料理やお菓子を市内外の飲食事業者にプレゼンして商品化されたものもあり、今後も引き続き、市、J A、大学等と産学官連携で商品化に結び付けてまいります。  |
| ④選果場への投資費用に見合う成果            | ④選果場建設にあたり、投資に見合うよう、計画を作成し、その実現に向けて取り組んでいます。結果、販売量が2,500t前後であったものから、3,500t前後まで回復し、約1,000tの増加（にんじん単価100円/kgとして販売額で1億円の増加）となる等、現在のところ計画どおりに進んでいます。<br>また、これまでの個人選果では出荷時刻に間に合うよう夜中の2時から作業をしていたが、選果場ができたことで、朝7時から作業を始められるようになり、時間に余裕ができてきました。さらに、昼間の作業となることで、雇用を導入しやすくなる等の成果を得ています。 |

## 5 外部評価結果の反映

農業経営課では、外部評価結果を取りまとめ対象の所属に送付し、次年度の普及活動に反映させるとともに、「令和元年度 岐阜県協同農業普及事業外部評価結果報告書」を県ホームページ上に公開しました。